

子どもも大人も 本気だよ



10月15日、第9回「たけの子祭り」を開催しました。もう、9回なのかまだ9回なのかわからなけれど、来年は節目の10回目なんだなと思うと感慨深いものがあります。今年は、理事の手塚さんの勧めもあって、目の前の田んぼで行いました。たけの子祭りは毎回のことながら、子どもだけでなく、大人も本気モード。「大人げない」なんて言わないでください。誰もがみんな子どもだったのですから。

毎年恒例の綱引きは、綱を引く前から駆け引きがあります。ゲームが始まる前からチームがあるわけではなく、みんな、自然に右と左二つのチームに分かれます。今回は、どう見ても子どもが多いでしょうというチームと、大人が多いんじゃないというチームに分かれたので、子どもが多いチームに「誰かきてほしい人いる？」と聞いて何人か移動してもらってから始まりました。綱引きの前の「引き抜き」ですね。1回戦はみごと、子どもが多かったチームの勝利！しかも、結構均衡していた試合でした。次は、勝ったチームから負けたチームにまたまた人が移動したので、急遽、



たけの子の男性スタッフが加勢に入りました。みんなの絶妙なパワーバランスで、みごと一勝一敗の引き分け。毎年そうなるんです。これってすごいことだなんて思います。社会の仕組み全体がそうなっていったら争いが無くなるのになって思うのはわたしだけでしょうか。

たけの子祭りの花方はなんといいっても子ども

たちひとりひとりが挑戦する「野をこえ山こえ」です。一本橋、飛び石、ジャンプ（今回は脚立使用）、竹馬か竹ぼっくり、こいのぼりくぐり、でんぐり返し、馬跳び、縄跳び（一人跳びか大縄跳び）、そして最後は保育者によじ登って肩の上に立ってから前転で降りるという、全部で9つの挑戦を次々やってのけます。脚立のどこからジャンプするのか、竹馬にするのか竹ぼっくりにするのか、縄跳びは一人するのか何回跳ぶのか、それぞれ自分たちで目標を決めます。

去年まで、縄跳びに消極的だった子も、今年は自分の目標に向かって真剣に取り組む様子が見られました。そして、できる子も友達のできないところを励ます姿を見ることができました。

年中まではごちやごちやしていいんだな、と再認識しました。子どもたちは年長になるとちゃんと成長して、やるときはやる！のです。

そして、午後からは「たけの子のお店屋さん」が開店。

子どもたちと活動の中で作ったシソゼリーやクズの葉っぱですいたハガキの他、子どもたちが自分たちで準備した商品も次々並びました。折り紙のコマ、レゴブロック、プラバンで作ったキーホルダー、きれいな石、フェイスペイント屋さん。それぞれが工夫されています。わたしのリラックマ好きに合わせてプラバンのキーホルダーを作ってくれた子がいて、もちろん購入させてもらいました。やられたって感じですけどね。

今年の園の畑のじやがいもはチビチビなものが多かったけれど、それも大・中・小・小々と取り混ぜて袋に入れ並べました。売れ残ったじやがいもは、ストーブで焼いて、今、子どもたちのおやつになっています。

この前、館山公園にみんなで遊びに行った時は、ロープを持っていき、即席のターザンロープをこ



しらえてみんなでやりました。桜の木の子どもが登れるところが一番高いところから、ロープをしっかりと持って飛び出します。足場がないところへ自分の腕と足の支えだけを頼りに飛び出すのですから、勇気が要ります。悩んで悩んで、一旦は「おっ」と言った子も、「やっばりやる！」と意を決して空中に飛び出します。そして、やり切った時のうれしさ！結局子どもたちは帰りまで何度も何度も繰り返しスリルと達成感を味わっていました。

幼児期は、環境によって間接的に行われる教育（幼稚園教育要領）です。子どもたちは、わたしたち大人との関りは忘れてしまっても、ドキドキワクワクした経験が、その子の人生を豊かにしてくれることでしょう。

10月
寄付や支援をいただいた方々
支援金

- ・ 渡部 鋭幸 様
- ・ 土田 英順 様
- ・ 山本 和子 様 (表町町会 129名の皆様)
- もち米・木村 日出夫 様
- 米
- ・ 後藤 由美子 様
- ポランテア
- ・ 長沢 貢 様
- ・ 細谷 洋一 様
- ・ 曽根 裕子 様
- ・ 武藤 みのる 様
- ・ 佐藤 彩夏 様
- ・ 原田 綾子 様
- ・ 小林 央奈 様
- ・ 高橋 京果 様
- 文教大文化祭 下村ゼミ学生の皆様

goodd 支援金9月分

<ご支援金>
2,021円
1,いいね!、商品購入案件
484円
2,毎日クリック
1,537円

ご支援ありがとうございました